

イギリス

テムズ川 クリーンアップ・プロジェクトを発表

イギリス・ピアソン大臣（環境・食糧・農村地域省）は、3月21日、前代未聞の規模のテムズ川クリーンアップ・プロジェクトを発表しました。これはテムズ川に沿って30kmの下水トンネルを建設し、ロンドン東部の下水処理場に排水や雨水を運ぶという壮大なプロジェクトです。ロンドンの現在の下水道網は、19世紀後半にジョセフ・バザルジェット氏によって建設され、当時最高の技術と称えられました。

しかし、気候変動と都市の拡大により、現在では年間5200万m³もの未処理の下水、雨水がテムズ川とリー川に流れ込み、汚染の原因となっているのです。このうち3200m³は、下水のオーバーフローによるものです。これにより魚が死に、河川利用者の健康に害が及び、テムズ川の美しさも損なわれてしまっています。プロジェクトの完成予定は2019～2020年度で、建設費用は20億ポンドと推定されています。

イギリス

動物福祉法を施行

イギリスで4月6日の動物福祉法施行を前に、4日、王立動物虐待防止協会（RSPCA）の動物病院にて、同法を歓迎・支持する行事が開催されました。

家畜以外の動物に、福祉に関する要求事項を導入したのは同法が初めてで、ペットを買ったり、懸賞で当てたりできる年齢も16歳に引き上げられました。

また、ペットの飼い主の「世話をする義務」が明文化され、飼い主は、その動物に適した方法での飼育など5つの条件を満たすように求められることになりました。

今後、政府は、ドッグレースのグレイハウンド犬や、移動サーカスで使われている野性動物について、より詳細な法律を策定する予定です。

アメリカ

再生可能燃料を促進する 包括的なプログラムを公表

アメリカ環境保護庁（EPA）は、4月10日、再生可能燃料基準（RFS）プログラムを打ち出しました。これは、ブッシュ大統領が発表した「今後10年間でガソリン消費量を20%削減する」という目標の達成に大きく貢献するものです。

このプログラムは、2012年までに、アメリカ国内で販売される自動車燃料の中に、少なくとも75億ガロンの再生可能燃料を混入するよう求めるものです。これにより、「ガソリン消費量を39億ガロン削減し、温室効果ガス排出量を最大で年間1310万トン（自動車230万台分の排出量に相当）削減することができる」とされています。

EPAのジョンソン長官は、この計画について、「環境を保全し、エネルギー安全保障を強化し、アメリカの農家を支援するというハットトリック」を達成するものだと評価しています。

ドイツ

ビオトープに関する 最新のレッドリストを公表

ドイツ連邦環境省は、3月27日、危機的な状況にあるビオトープについて、最新のレッドリストを発表しました。ドイツ国内の690種類のビオトープのうち、約72%が、絶滅の危機に瀕している、または危険な状況にあるということです。

しかしその一方で、喜ばしい状況としては、過去に衰退していたビオトープが、安定化したことも指摘しています。これは、現在の自然保護への努力や、EUの自然保護法令の国内法への転換、地域間の連携、保護区制度の改善、エコロジー農業の増加の結果といえます。

ガブリエル環境大臣は、自然を永続的に保護し、2010年までに生物多様性の喪失を阻止するという国際的な目標を達成するためには、全ての段階において、自然保護への努力を怠らなければならないことを、このレッドリストは示していると評価しました。

UNEP

インド太陽光発電融資プログラムが 「エネルギーグローブ賞」受賞

4月12日、UNEPが取り組むインドの太陽光発電融資プログラムが、国際的に有名な環境賞である「エネルギーグローブ賞」を受賞しました。

2003年、国連財団とシェル財団の支援を受け、UNEP、UNEPリソ・センターが、インドの2つの大銀行と提携して、4年間のインド太陽光発電融資プログラムを開始。電気網が整備されていない南インド地域の家庭用太陽光発電システム（SHS）用に資金を援助するため、消費者金融市場を設立しました。

このプログラムでは、金利の引き下げ、市場の発展の支援、太陽光発電事業者の認定も行われました。

2003年には現金でしか取引されなかったために市場は小さかったのですが、現在は20銀行2000支店から融資を受けられるようになりました。現在、18000世帯10万人がこの支援を受けています。

編集協力：財団法人環境情報普及センター（EIC）
各ニュースの詳細は、「EICネット」の「海外の環境ニュース」のホームページをご覧ください。アドレスは、<http://www.eic.or.jp/>です。